

検討しよう！！

「リース」と「買取」

✓ 対策の概要

1. 節税面ではどちらが有利かを検討する
2. 経営の健全性を維持する面ではどちらが妥当かを検討する
3. 担保力の面ではどちらが良いかを検討する

✓ 要点及び留意事項

1. リース会社のパンフレット等に惑わされないように、リースの長所及び短所を客観的に検討すること
2. 経営の健全性を維持するために、過度なリース活用は慎重に検討すること
3. 担保余力の確保はリース活用という逃げの方法では無く、積極的に担保力を増強するという方法を中心にする必要がある

✓ リース・買取の比較

項目	リース	買取
契約（償却）期間	使用可能期間（法定耐用年数など）の70%以上	使用可能期間（法定耐用年数など）
解約	不可 （残リース料支払）	-
対象物件	任意	任意
固定資産税 ・動産保険	リース会社負担	ユーザー負担
保守・修理・除却費用	ユーザー負担	ユーザー負担
陳腐化対応	一部可能	不可
資金面	平準化可能	導入時に全額
会計処理・法人税	資産計上	資産計上

